

<b>打合議事録</b>		<b>作成日</b>	2019年10月28日(月)
		<b>作成者</b>	中央自動車工業 高橋
<b>開催内容</b>	アルコール検知器協議会 第三回技術委員会		
<b>開催日時</b>	2019年10月24日(木) 13:00~14:05 (@TKP 東京駅セントラルカンファレンスセンター カンファレンスルーム 12E)		
<b>出席者</b> (敬称略・順不同)	議事進行：畑技術委員長 出席者：新コスモス電機(西田)／タニタ(望月・金成)／中央自動車工業(酒井・高橋)／東海電子(杉本・高木・吉田)／ドレーゲルジャパン(齋藤)／NISSHA エファイエス(常深・柳谷)／パーマンコーポレーション(篠田)／パイアール(山崎)／フィガロ技研(川畑・西村・河口)／ヤナコ計測(上西)		
<b>議論内容</b>	<p><b>1) 外部検定の運用状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 10月現在 6社 16機種</li> <li>● 当初からの主な変更点           <ul style="list-style-type: none"> <li>・申請は毎月月初め10営業日まで受付。申請(申請書提出)先は技術委員長へ。</li> <li>・審査会は4グループの輪番制へ。6月申請分については第一グループが実施済。</li> <li>・審査会合格通知日までに審査の可否は連絡しない。書類不備に関しては逐一連絡し合格日までに修正してもらう。</li> <li>・日程調整期間中でもCERI様が訪問しても可。</li> <li>・CERI様で翌月中旬までに試験を実施。</li> <li>・CERI様からの結果連絡は技術委員長に。その上で技術委員長から審査会グループへ。</li> <li>・合格時技術委員長が台帳登録。技術委員長が認定番号を申請会社とJ-BAC事務局に連絡し、CERI様に機器返却連絡。</li> <li>・HP掲載、当面は認定番号順。</li> </ul> </li> <li>● 合格後の対応           <ul style="list-style-type: none"> <li>・申請会社はウェブ掲載依頼書をウェブ広報班に提出。</li> <li>・事務局から申請会社に認定書送付。</li> </ul> </li> <li>● 文書審査による不備の件           <ul style="list-style-type: none"> <li>・CERI様が不備と判断した項目⇒今年度申請品は観察事項としてOKとする。次年度の維持審査までに修正とする。次年度以降の申請品は不合格。</li> <li>・合格範囲⇒0.001mg/LのオーバーでもNG。</li> <li>・製品採取場所はあくまでも最終出荷場所。他社への移動もNG。</li> </ul> </li> <li>● 再申請について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・検定申請書(様式1)に“再申請”にて技術委員長に提出。試験条件も提出。</li> <li>・技術委員長より審査会に再申請に関する文書送付。内容確認。</li> <li>・技術委員長からCERI様に日程調整依頼の連絡。</li> <li>・申請会社とCERI様で日程調整。</li> <li>・以降は【外部検定の流れ】⑥~と同様。</li> </ul> </li> <li>● 再申請見積           <ul style="list-style-type: none"> <li>・書類審査NG⇒対象資料をCERI様に送付する場合¥44,000-</li> <li>・書類審査NG⇒CERI様が訪問して審査する場合¥154,000-</li> <li>・技術NG⇒現地訪問 + 1機種抜取¥99,000- (以降1機種増毎に+¥10,000-)</li> </ul> </li> <li>● 再申請の質問事項について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・再申請品の認定期間は認定月からスタート</li> <li>・再申請の審査会は新規申請を受けたグループが受け持つ。</li> <li>・不合格品再申請時の検査は全てやり直す(直進性・繰返し性・干渉ガス)。</li> </ul> </li> </ul>		

## 2) アルコールガスのトレーサビリティ調査

- WGメンバー決定。しかしISO化対応を優先させるため作業中断。

## 3) JB20001規格及びJIS化について

- JB20001規格策定へ
  - ・WGメンバー決定。
  - ・日本臨床検査標準協議会（以下「JCCLS」）によるISO化の協力依頼があり、そのままのスライドで規格の評価を開始。  
ISO規格化することで海外において“ISO規格を満たす機器”として受け入れられやすくなるメリットがあり、J-BACとしてISO = JB20として進行する。
  - ・7月3日のJCCLS委員会にて、JCCLS内にISO化WG発足。  
11月のシンガポールでの国際会議に向け、ドラフト提出のため規格案作成依頼があり、EN15964,16280,ISO17621をベースにOIML R126の規格を追加しJ-BAC案提出。  
※EN15964,16280の両立はScopeが変わるため、今後EN16280をメインとする。  
航空事業における安全についても入れる。
  - ・干渉ガス(飲食等の影響)を規格に追加。その回避運用についても規格化できれば。  
また、現場での校正（精度確認）ができる制度の規格化ができれば。
  - ・JCCLS、ISOのWGリーダーに畑委員長が担当。

## 4) J-BACに寄せられた技術的問合せ

- 義歯安定剤連絡会
  - ・J-BACとして研究費用の協力は辞退。試験手法や試験機種の提供等の協力は約束。
  - ・現在、臨床プロトコルの精査、使用機種の選定、試験立会い、結果の考察について協力依頼あり。
  - ・義歯安定剤連絡会対応のためのWG立上げ検討。
- 国土交通省「立山黒部貫光様、標高の高い（気圧の低い）環境での計測」問合せの件
  - ・吹き込み検知できず計測不能になる。気圧の他、気温（低温）が問題の可能性あり。  
※対象となった東海電子様・フィガロ技研様にて対応いただく。
- ロジテム九州様「アルコール手洗いが施設内にあり検知してしまう」問合せの件
  - 測定場所等、運用面で対応していただくしかない。  
※対象となった東洋マーク様・フィガロ技研様にて対応いただく。

## 質問・その他

- 外部検定でCERI様から“保管温湿度”について指摘があるが、湿度について定量的なバックデータはなく、これは「結露なきこと」と記載することで湿度の表記として認められるのか。
  - ・既に「結露なきこと」と記載のメーカーも指摘を受けている。
  - ・次回の技術委員会で会員企業からの意見を徴収する。
- CERI様が持っているチェックシートで「アルコール検知器のセンサーは、使用によって劣化するものであり、半永久的に使用できるものではありません。との意味合いで記載されているか。」との記載があり、このままの文面でないといけないと指摘を受けた。
  - ・文言の指定はしていないのでCERI様の受け取り方による勘違いと思われる。
  - ・CERI様にお伝えする。
- JCCLSからの追加項目等について
  - ・お酒以外のものへの反応について、類似ガスのことでもないため書かなくても良いくらいソフト

	<p>な回答が望ましい。「お酒以外でもこういうものにアルコールが含まれている」といった説明や、うがい等の運用面の説明が良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易の校正機器について、業界全体の問題とし技術委員会で検討要。</li> <li>・ISO化ができれば必然的にJIS規格が取れるようになるとのこと。</li> </ul>
<b>宿題事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 義歯安定剤連絡会対応のためのWGを立上げるためメンバー募集。</li> <li>・参加希望者は11月8日までに畑委員長まで連絡を。</li> </ul>
<b>スケジュール</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第4回技術委員会：12月3日（@大阪）※委員会終了後忘年会予定</li> <li>● 第5回技術委員会：2月25日（@大阪）</li> </ul>

以上